

華麗なる4大ピアノ協奏曲の響宴

# 横山幸雄

音楽史に燦然と輝く  
“4大ピアノ協奏曲”を  
一挙上演!

## PROGRAM

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番 Op.73 「皇帝」

ショパン:ピアノ協奏曲第1番 Op.11

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番 Op.23

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 Op.18

梅田俊明(指揮)

Toshiaki Umeda, Conductor

©K.Miura

2022.3/26[土] 13:30開演  
(12:45開場/ 16:20終演予定)

愛知県芸術劇場コンサートホール

SY8,000 AY6,500 BY5,000 CY3,500(税込)

※指揮者が当初の予定より変更となりました。

[お申込み]

アイチケット 0570-00-5310 (11:00~16:00 土日祝休み)

clanago.com/i-ticket

チケットぴあ t.pia.jp [Pコード:209-549]

イープラス eplus.jp

ローソンチケット l-tike.com [Lコード:45054]

芸文プレイガイド 052-972-0430

名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755

主催:ジャパン・アーツ 特別協賛:豊田通商株式会社 マネジメント:クラシック名古屋

©ZIGEN

好評  
発売中

名古屋フィルハーモニー交響楽団  
Nagoya Philharmonic Orchestra



# 心して(覚悟して!?)聴くべし! ——田中 泰

「4大ピアノ協奏曲公演」と聞いたら、普通は4曲の協奏曲を2日か3日に分けたコンサートの中で演奏することを想像する。ところがサブタイトルには「音楽史に燦然と輝く4大ピアノ協奏曲を一挙上演!」とある。これはいったい何なのだ。そもそもピアノ協奏曲はどうやって演奏されてきたのだろうか? 『ピアノ協奏曲の誕生(小岩信治著、春秋社刊)』の巻頭に素敵な文章が書かれているので引用したい。『ピアノ協奏曲はオーケストラ演奏会の華である。現代ではたいてい第1部、休憩前の演目として、このジャンルの音楽がプログラミングされる。オーケストラが並ぶ舞台の中央に、この時だけ姿を現す堂々たる黒いコンサート・グランド。そしてこの演目のためだけに舞台に現れるピアニスト。(中略)ピアニストは、この曲の楽譜をすべて頭に入れて、譜面台が外された楽器に向かう。そして彼の指から生み出される多彩な音楽は、大人数のオーケストラと渡り合い、ピアノとオーケストラによって繰り広げられる音楽のドラマは、演奏会前半のクライマックスとなる』。まさにその通りだ。だとしたら、横山幸雄が挑む「4大ピアノ協奏曲」はいつ

たいどうなるのか。ピアノは前半どころか、コンサートの最初から最後までステージの中央に鎮座し、ピアニストはコンサートの間ずっとオーケストラと渡り合う。しかも横山幸雄のことだから、当然楽譜なんか開かず、暗譜で弾くに決まっている。これは、「ショパン全ピアノ独奏曲212曲を18時間かけて暗譜で演奏」という、人間業とは思えないコンサートを成し遂げた横山幸雄ならではの。そして彼が一挙に弾き切ろうとしている4つのピアノ協奏曲がまた凄い。弾くことはおろか、通して聴くだけでも大仕事の重量級プログラムだ。しかし、冷静に考えてみれば、これほど贅沢な時間が他にあろうか。ピアノ協奏曲の名峰を迎える音楽の宴は、ワインのエキスパートとしても知られる横山幸雄がセレクトした最高級ワインをビンテージごとに味わう時間にも似ているような(関西では、ピフテキを2枚食べたような気分になる演奏会!と表現されたとか)。だからこそピアノ好きにはたまらない(肉食リスナーにもたまらない!?)。なにはともあれ、これが大変なコンサートであることは間違い無い。心して(覚悟して!?)聴くべし!

## 横山幸雄(ピアノ) Yukio Yokoyama, Piano

第12回ショパン国際ピアノコンクールにおいて歴代の日本人として最年少で入賞後、常に第一線で活躍を続け、2021年にはデビュー30周年を迎えた。各地の一流オーケストラやアーティストとの共演で絶大な信頼と評価を得ると共に、10年にわたる東京FMの番組でのパーソナリティや、数十枚に及ぶCD制作などにおいても高い評価を得ている。東京オペラシティにて3日間にわたるショパン全作品240曲演奏会を行った他、余人の到達しえない憂いと深みを極めた「ショパン」の演奏で聴衆を魅了し続けている。東京文化会館大ホールでの2日間にわたるベートーヴェン生誕250年記念ピアノソナタ全32曲連続演奏会などの壮大な企画で注目を浴びる一方、自身がプロデュースするリストランテペガソやキメラ、ピアンカラサロンでのより身近に音楽を感じられる機会を創出している。教育の分野では、後進の指導にも積極的に関わりと共に、故中村絃子女史の後を受けての日本パデレフスキ協会会長を務める。多方面で才覚を發揮し、我が国の音楽界を牽引するトップアーティストとして、その地位を確たるものとしている。

横山幸雄オフィシャルサイト <https://yokoyamayukio.net/>



©ZIGEN



## 梅田俊明(指揮)

Toshiaki Umeda, Conductor

1984年桐朋学園大学音楽学部卒業。86年同研究科修了。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。83、84年にはジャン・フルネ氏にも学ぶ。86年よりウィーン国立音楽大学指揮科に留学、オトマル・ストナー氏に師事し研鑽を積んだ。帰国後、日本センチュリー、仙台フィル、神奈川フィルの指揮者を歴任。NHK響、読売日響、東京都響、東響、日本フィル、新日本フィルを始め、国内主要オーケストラと長年にわたり共演を重ねている。2000年より仙台フィル常任指揮者に就任。オーケストラの発展に情熱を注ぎ込み、06年3月までその任を務めた。06年には大ブームとなったドラマ「のだめカンタービレ」に演奏及び指揮指導で参加し、注目を集めた。国内だけでなく96年には南西ドイツ・フィル、スロヴァキア・フィルの定期演奏会にも出演し、いずれも好評を博した。的確な棒さばきと音楽に対する誠実な姿勢でオーケストラからの信頼が厚い。東京藝術大学非常勤講師。

©K.Miura



## 名古屋フィルハーモニー交響楽団 Nagoya Philharmonic Orchestra

中部・東海地方の音楽界をリードするプロ・オーケストラ。革新的な定期演奏会のプログラムや、充実した演奏内容で広く日本中に話題を発信。愛称は“名フィル”。2016年小泉和裕が音楽監督に就任。ほかに現在の指揮者陣は、川瀬賢太郎(正指揮者)、小林研一郎(桂冠指揮者)、モーシェ・アツモン(名誉指揮者)、ティエリー・フィッシャー(名誉客演指揮者)。2020年坂田直樹が第3代コンポーザー・イン・レジデンスに就任。1988年ヨーロッパ2か国、2000年アジア8か国、2004年ヨーロッパ3か国、2006年アジア7か国のツアーを実施、いずれも大成功を収める。楽団創立は1966年7月10日。1973年に名古屋市の出捐により財団法人に、2012年に愛知県より認定を受け公益財団法人となる。現在は「定期演奏会」、有名作品を中心に取り上げる「市民会館名曲シリーズ」、障がいのある方を対象とした「福祉コンサート」、学校を訪問する「名古屋市内小・中学校移動音楽教室」など、バラエティに富んだ年間100ほどの演奏会に出演。

公式ウェブサイト <https://www.nagoya-phil.or.jp/>

【次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さい】①やむを得ない事情により出演者、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様も入場には一人1枚チケットが必要です。⑥本公演は全席指定です。指定のお席をご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。⑩公演実施の可否は新型コロナウイルス感染状況を見極めて慎重に判断させていただきます。

Twitterでフォローする  
@japan\_arts